

第25回 BELCA 賞決定

第25回BELCA賞については、同賞選考委員会による厳正な選考の結果、この度表彰建築物10件（ロングライフ部門7件、ベストリフォーム部門3件）を次の通り決定いたしましたので、お知らせいたします。

なお、表彰式は平成28年5月16日(月)、ロイヤルパークホテル（東京都中央区日本橋蛸殻町2-1-1）にて開催する予定です。

ロングライフ部門においては、建築物の所有者・設計者・施工者・維持管理者が受賞者となり、ベストリフォーム部門においては、建築物の所有者・改修設計者・改修施工者が受賞者となります。

ロングライフ部門表彰建築物（順不同）

	表彰建築物名	所在地	竣工年	用途	
		建物所有者	設計者	施工者	維持管理者
1	大倉山ハイム 3号棟～8号棟住宅	神奈川県横浜市港北区大豆戸町875-4	1979年	共同住宅	
		大倉山ハイム3号棟～8号棟住宅管理組合	㈱日建ハウジングシステム	鹿島建設㈱、㈱カシワバラ・コーポレーション、YKK AP㈱	住商建物㈱
2	北九州市立戸畑図書館	福岡県北九州市戸畑区新池一丁目1番1号	1933年（2014年改修）	新築時：市庁舎 現況：図書館	
		北九州市	福岡県営繕課（新築）、北九州市建築課（改修）、㈱青木茂建築工房（改修）、㈱金箱構造設計事務所（改修）	㈱鴻池組（新築・改修）、九鉄工業㈱（改修）	北九州市、㈱日本施設協会
3	旧ジェームス邸	兵庫県神戸市垂水区塩屋町6-28-1	1934年（2012年改修）	新築時：専用住宅 現況：レストラン兼結婚式場	
		三洋電機㈱（所有者）、㈱ノバレーゼ（使用者・改修工事建築主）	㈱竹中工務店	㈱竹中工務店	㈱ノバレーゼ
4	神戸大学 六甲台本館・社会科学系図書館	兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1	本館：1932年、図書館：1933年	大学（本館・図書館）	
		国立大学法人 神戸大学	文部省建築課（新築）、国立大学法人 神戸大学（改修）、㈱類設計室（改修）、神戸大学名誉教授・工学博士 足立裕司（改修監修）	㈱大林組	国立大学法人 神戸大学
5	千葉大学 みのはな記念講堂	千葉県千葉市中央区支鼻1-8-1 千葉大学亥鼻キャンパス内	1963年（1993年第1回改修、2014年第2回改修）	大学（講堂）	
		国立大学法人 千葉大学	横文彦+㈱竹中工務店（新築）、国立大学法人 千葉大学（第1回改修）、㈱横総合計画事務所（第2回改修）	㈱竹中工務店	国立大学法人 千葉大学
6	三井住友銀行 大阪本店ビル	大阪市中央区北浜4丁目6番5号	1930年	銀行（本店）	
		㈱三井住友銀行	住友合資会社臨時建築部（新築）、㈱日建設計（新築・改修）	㈱大林組（新築・改修）、㈱鴻池組（改修）、㈱浅沼組（改修）、住友電設㈱（改修）、浅海電気㈱（改修）、ダイダン㈱（改修）、㈱三晃空調（改修）、須賀工業㈱（改修）	東西建築サービス㈱
7	武蔵大学 江古田キャンパス 大学3号館・大講堂・根津化学研究所	東京都練馬区豊玉上1-26-1	大学3号館：1923年（2005・2012年改修）、大講堂：1928年（2011年改修）、根津化学研究所：1936年（2010年改修）	大学（講義棟・講堂・研究棟）	
		学校法人 根津育英会武蔵学園	清水建設㈱（大学3号館新築）、佐藤功一（大講堂新築）、佐野利器（根津化学研究所新築）、㈱鈴木建築事務所（上記改修）	清水建設㈱	学校法人 根津育英会武蔵学園、㈱武蔵エンタープライズ

ベストリフォーム部門表彰建築物（順不同）

	表彰建築物名	所在地	竣工年	改修年	改修前用途	改修後用途
		建物所有者	改修設計者		改修施工者	
1	新潟市水族館	新潟県新潟市中央区西船見町5932-445	1990年	2013年	水族館	水族館
		新潟市	㈱大建設計		㈱加賀田組、丸運建設㈱、㈱新潟藤田組、星野電気㈱、大明電業㈱、㈱渡辺電気工業所、興洋管建㈱、㈱ナカムラ、㈱千代田設備、北陸ガス㈱、㈱丹青社	
2	氷見市庁舎	富山県氷見市鞍川1060	C棟（旧校舎）：1966年 B棟（旧体育館）：1991年 A棟（旧体育館）：1996年	2014年	高等学校（校舎・体育館）	市庁舎
		氷見市	㈱山下設計、㈱浅地建築設計事務所		名工建設㈱（本体）、氷見土建工業㈱（外構）	
3	三越銀座店	東京都中央区銀座四丁目6番-16	1968年	2011年	百貨店	百貨店・駐車場
		㈱三越伊勢丹	鹿島建設㈱		鹿島建設㈱（既存本館・増築部分）、大成建設㈱（増築部分）	

※受賞者名は今後変更されることがあります。

第25回 BELCA 賞の概要

- 目 的** 長期にわたって適切な維持保全を実施したり、優れた改修を実施した既存の建築物のうち、特に優秀なものを選び、その関係者を表彰することにより、わが国における良好な建築ストックの形成に寄与することを目的とします。
- 主 旨** ロングライフ部門では、長期使用を考慮した設計のもとで建設されるとともに、長年にわたり適切に維持保全され、さらに今後相当の期間にわたって維持保全されることが計画されている、模範的な建築物を表彰し、ベストリフォーム部門では社会的・物理的な状況の変化に対応して、今後の長期使用のビジョンを持って、蘇生させる、もしくは飛躍的な価値向上等をさせるリフォームがなされた、模範的な建築物を表彰します。
- 対 象** ロングライフ部門は、長期使用を考慮した設計のもとで建設されるとともに、建設後30年以上にわたり適切に維持保全され、さらに、今後10年以上にわたって維持保全されることが計画されている建築物が対象となります。ベストリフォーム部門は、社会的・物理的な状況の変化に対応して、今後の長期使用のビジョンを持って蘇生させる、もしくは飛躍的な価値向上等をさせるリフォームがなされ、リフォーム後1年以上かつ5年未満の建築物が対象となります。
- 選 考** 選考は、建築学界、建物所有、設計、建設、設備、メンテナンスといった多分野からなる「第25回 BELCA 賞選考委員会」（委員長：内田 祥哉 東京大学名誉教授）により行われました。
- 受賞件数** 今回を含め、ロングライフ部門112件、ベストリフォーム部門134件、合計246件が受賞しています。
- 次回募集** 第26回の募集は本年5月中旬より7月初旬まで行う予定です。

第25回 BELCA 賞選考委員会（順不同・敬称略）

- | | |
|---------|--------------------------------------|
| 委 員 長 | 内田 祥哉（東京大学 名誉教授） |
| 委員長代理 | 三井所清典（㈱アルセッド建築研究所 代表取締役、芝浦工業大学 名誉教授） |
| 副 委 員 長 | 鎌田 元康（東京大学 名誉教授） |
| 副 委 員 長 | 深尾 精一（首都大学東京 名誉教授） |
| 委 員 | 加藤 淳一（㈱石本建築事務所 執行役員 製作担当兼技術監理室長） |
| 委 員 | 栗山 茂樹（清水建設㈱ 常務執行役員 設計本部長） |
| 委 員 | 小林 照雄（㈱大林組 常務執行役員 設計本部長） |
| 委 員 | 佐野 清孝（日本電設工業㈱ 執行役員 営業統括本部副本部長） |
| 委 員 | 重田 耕輝（大星ビル管理㈱ 取締役 工事業務部長） |
| 委 員 | 中村 昌行（東京ガス都市開発㈱ 取締役 技術管理部長） |
| 委 員 | 本多 武（東洋熱工業㈱ 執行役員 生産管理本部長） |
| 委 員 | 渡邊 顕彦（㈱三菱地所設計 代表取締役常務執行役員） |

※ 各委員の役職は選考時のものです。

第25回 BELCA 賞選考総評

BELCA 賞選考委員会 委員長 内田 祥哉

BELCA 賞は、良好な建築ストックが現代社会の中で生き生きと活用されることを目的に設けられた賞である。賞は2部門で、長年にわたり適切に維持保全され、今後も永く継続されることが計画されている建築物をロングライフ部門、社会の変化に対応したリフォームで、見事に蘇生した建築物をベストリフォーム部門としている。平成3年から昨年までの表彰件数は、ロングライフ部門：105件、ベストリフォーム部門：131件、あわせて236件を数えている。地球環境問題が顕著化しつつある昨今、BELCA 賞への関心は、持続可能な社会に向けて高まってきたといえる。

建築が、現代社会の中で活用されるためには、ロングライフ部門でも設備の抜本的改修が必要であるのに対し、ベストリフォーム部門では建物に蓄えられた記憶が尊重されるようになった。そこで、近年は両部門分けずに合わせて10件を選考している。ここ数年は、ベストリフォーム部門がロングライフ部門を上回る状況が続いたが、本年度はロングライフ部門7件、ベストリフォーム部門3件と、逆になった。

ロングライフ部門では、長期使用を意識した設計で、住民に愛されている大規模分譲型集合住宅、地域のシンボルであった市役所の外観を維持した図書館、貿易商の邸宅をその姿のまま活用したレストラン、文化財の価値を保ちながら内装を改修した大学本館と附属図書館、創建時のデザインコンセプト堅持し、維持・保全の計画がなされている大学講堂、創建当時の意匠で大阪のシンボルである、築85年の銀行本店、関東大震災や戦災を乗り越えている大学キャンパスが、選に残った。

ベストリフォーム部門では、大規模改修により入館者数が飛躍的増加した水族館、廃校となった体育館をコンバージョンした市庁舎、道路をへだてた増築部分の一体化を図った百貨店が、選に残った。

これらをみて実感されることは、建築寿命を延伸する新たな技術が次々と開発されていることである。

この度は優れた応募建築物が多く、惜しくも選に漏れた建築物もあったが、それらについては条件を整えた上で再度の応募を期待したい。また、BELCA 賞の周知は広まりつつあるが、未だ受賞建築物のない県が9県ある。建築物の維持保全技術の全国的普及を目指す本賞の趣旨から、未受賞の地域からの応募も切に期待したい。

第25回 BELCA 賞ロングライフ部門評

BELCA 賞選考委員会 副委員長 深尾 精一

今回は、BELCA 賞としての表彰件数10件の中で、7件がロングライフ部門での表彰対象となった。1991年以来のBELCA 賞を5年ごとに見てみると、最初の15年間はロングライフ部門とベストリフォーム部門がほぼ同数であったが、16回～20回はロングライフ部門が4件ずつ、そして21回以降は同部門が3件の年が3回と、ベストリフォーム部門からの表彰が多くなってきていた。それに対し、今回はロングライフ部門から7件と、過去最大件数となったことが大きな特徴であろう。

また、24回までにロングライフ部門で表彰された105件中、戦前に建設されたものは30件であったが、今回は7件中5件が戦前に建設された建築であった。それらは、大学施設2件、公共建築1件、銀行建築1件、住宅1件と多様であり、長く使い続けることになった経緯も様々であった。

大学施設の2件は、時間とともに変容していくキャンパスの全体計画の中で、複数の建物が大切に活かされながら使い続けてきたということが評価されたものである。国立と私立という違いはあるが、学生たちが学び研究し巣立っていく環境に相応しい、思い出に残る施設群を維持したいという想いは共通であろう。一方、三井住友銀行大阪本店ビルは、当初の存在感のある建築を活かしながら、オフィス環境や耐震性能、設備などを一新していることが評価されている。

北九州市立戸畑図書館は、旧戸畑市の市役所として建設され、庁舎建築として使い続けられてきたものを、画期的な耐震改修手法を用いて図書館として再生したものである。選考委員からはベストリフォーム部門の方が相応しいのではないかと声も出たが、公共建築としてロングライフであることを評価してほしいという申請者の想いが認められたものである。そのことをもってしても、幸せな長寿命建築であると言ってよいであろう。

以上のような、周辺の建築との関係性も評価の対象となる建築に対し、旧ジェームス邸は、その豊かな敷地環境ゆえに解体され再開発される恐れもあった単独の建築であるが、関係者の熱意によって、新たな機能の建築として保存活用されることになったものである。このような経緯をもつ建築を顕彰することはBELCA 賞の責務ではないだろうか。

一方、戦後に建設された2件も、マンション1件、大学施設1件と、異なったジャンルの建築である。千葉大学なのはな記念講堂は、戦後に建設され既に50年以上が経過しているが、その古さを感じさせない建築である。リフォームを経ているが、当初の優れたデザインの建築を使い続けたいという関係者によってロングライフとなっている。

大倉山ハイムは、特に豪華というわけではない一般的なマンションであるが、長持ちする集合住宅を造りたいという、当初の設計意図が十分に活かされて使い続けられている建築である。1970年代にパイプシャフトを住戸外に設けるなど、現在の長期優良住宅で要求されているが、市場の中では未だに少数派である様々な工夫がなされており、それがロングライフに貢献していることは特筆すべきであろう。管理組合と管理会社との関係も良好であり、まさにBELCA 賞が顕彰すべきタイプの建築である。

今回のロングライフ部門の表彰対象は多岐に亘った建築であり、部門としての特徴を述べることは困難であるが、総じて、そのロングライフの価値を認識されて使われている、幸せな建築と言ってよいであろう。

第25回BELCA賞ベストリフォーム部門評

BELCA賞選考委員会 副委員長 鎌田 元康

今回・第25回のBELCA賞の応募件数は、昨年より微減したものの、二部会制による選考の廃止に伴い、一つの委員会にて両部門の選考を行うこととし、表彰件数を「各部門5件以内」から「両部門合わせて10件以内」とするなど、選考規定を改定した2001年度・第11回以来のほぼ平均的な件数であった。第11回以来、常に10件が表彰されているが、第11回～第14回はロングライフ部門・ベストリフォーム部門同数であったものが、その後前回まではベストリフォーム部門の方が表彰件数の多い状況が続いた。しかし今回は一転し、ロングライフ部門7件、ベストリフォーム部門は、BELCA賞創設以来最低の3件となった。

表彰案件は、全国の水族館の多くが1990年前後のバブル経済期に相次いで開館しているため、近年、経年劣化による大規模修繕時期を迎える「2020年問題」という経営課題を抱えており、さらに、少子高齢化の進展もあり、単なる施設修繕のみでは今後の来館者ニーズに対応することが困難と判断した上で、生物を身近に感じられる見易さを追及するために展示空間の再構成を図り、駐車場から水族館への長く単調なアプローチ部分に身近な新潟の自然の理解に役立つ「にいがたフィールド」を新設し、展示順路に沿ったバリアフリールートを確保するなど、きめ細やかな配慮のもとリフォームがなされている（2010年3月付の「新潟市水族館リニューアル基本計画」がネット上で公開されている）新潟市水族館、防災安全上の課題（耐震性能不足、津波被害の可能性等）や市民サービス上の課題（バリアフリー対応、駐車場不足等）を、財政負担の大きい新築移転ではなく、社会的共通資産としての建築ストックの活用（廃校となった高等学校のコンバージョン）で解決すべく、校舎の一部および2つの体育館を利用し、特に体育館の高い天井高、高い位置の窓という特性を活かし、かつ、気積を減らし空調負荷を増やさない工夫をした上で、気持ちのよい各用途の空間を、設備的な種々の工夫を加えて造り出した点が評価された氷見市庁舎、手狭となった売り場面積の拡張を、既存本館と増築用地の間にある区道を廃道とし（2層吹き抜けのパサージュとして利用）、分断されていた街区を一体化することにより実現しているが、その際に、全館避難安全検証法と消防性能規定ルートC（大臣認定）、都市再生特別地区制度などを有効に活用し、かつ、既存部分と増築部分の間の空間処理が見事であり、建物の再生だけでなく、街路空間を活性化して回遊性を高めることにより、賑わいのあるまちづくりにも貢献している三越銀座店という、建物用途、解決すべき課題が大きく異なる3件である。表彰件数こそ過去最低の3件であったが、すべて今後のリフォームのあり方を考える上での多くの示唆を含む内容の案件であった。

3案件とも環境・設備面でも種々の工夫をしている上に、今後の維持・保全、更新に配慮した改修を行っていること、三越銀座店では延べ面積65%増に対しCO₂排出量が5%増に抑制されていることなど、評価に値する点が多々あったことも今回の表彰建築物の特徴といえよう。